文化が活きる京都の推進に関する条例に基づく

基本的な指針

令和７年６月

京　都　府

目次

1　策定の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

2　本指針の対象範囲　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

3　文化を取り巻く近年の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

4　めざす姿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

5　京都の文化の強みを活かす取組推進の視点　・・・・・・・・・　5

6　推進体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

7　重点プロジェクト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

8　重点プロジェクトと合わせて着実に推進する取組　・・・・・　12

9　取組の評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

1　策定の趣旨

令和５年３月、文化庁が京都に移転しました。中央省庁の移転は明治以来初めてのことです。その意義は、東京一極集中の是正だけではなく、日本各地の多様な文化の掘り起こしや磨き上げを行うなど、国と地方が連携した新たな文化政策を総合的に推進することであり、日本の文化政策の新たな潮流を生み出し、地方創生につなげることをめざすとされています。

京都府では、文化庁、京都市をはじめとする市町村、文化・経済団体などの関係団体とともに、新たな文化政策の潮流を生み出し、日本の発展に寄与するべく、文化を活用した地方創生の芽をここ京都で育て、花を咲かせたいと考えています。

その具体的な取組を効果的に実施するための指針として、文化が活きる京都の推進に関する条例（令和６年京都府条例第 31 号）に基づく基本的な指針（以下「本指針」という。）を策定します。

なお、文化を取り巻く状況が変化した場合など、必要に応じて本指針を見直すこととします。

2　本指針の対象範囲

本指針は、文化芸術基本法（平成 13 年法律第 148 号）第７条の２第１項の規定による文化芸術の推進に関する事項だけでなく、歴史・風土の中で培われた生活様式や様々なものづくりの工程を支える技術、価値観、言葉などの京都各地の独自の文化に関する事項についての京都府の取組の指針として定めるものです。

3　文化を取り巻く近年の状況

（1）文化庁の京都移転の実現

文化庁の京都移転を機に、文化財の活用やアート市場の拡大などによる文化と経済の好循環の創出、祭りや食文化などの生活に根差した文化の振興、博物館をはじめとする文化施設の機能強化や地域との連携強化など、新たな文化政策の展開が期待されています。

（2）情報通信技術の急速な進展

5G 通信環境の普及により超高速大容量通信が可能になるとともに、NFT[1]や生成 AI[2]など

[1] Non-Fungible Token（非代替性トークン）の略称。「偽造・改ざん不能のデジタルデータ」であり、ブロックチェーン上で、デジタルデータに唯一の性質を付与して真贋性を担保する機能や、取引履歴を追跡できる機能をもつ。
[2] 深層学習や機械学習の手法を駆使して、人が作り出すようなテキスト、画像、音楽、ビデオなどのデジタルコンテンツを自動で生成する技術のこと。

の情報通信技術は急速に進化しており、最新の技術を活用した新たな文化の創造や、文化財や職人の技術の記録保存などへの活用が期待されています。

また、2019 年度に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い発展してきたオンライン配信などの技術を活用して、より多くの府民が気軽に文化に親しめる機会が創出されることが期待されています。

（3）大阪・関西万博などの世界的イベントの開催

2025 年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）やワールドマスターズゲームズ 2027 関西[3]は、府内各地の活性化や経済成長につながる絶好の機会であることから、世界中から京都を訪れる多くの観光客に京都の文化を発信するとともに、府内各地へと誘うことが期待されています。

（4）人口減少、高齢化の進行

京都府はもとより、全国的な人口減少や高齢化の進行により、文化の担い手は減少傾向にあります。特に、過疎化が進む地域では、各地の気候風土に育まれた固有の祭りや食、芸能などの地域文化の継承がより一層厳しい状況にあり、その継承を支援する取組が期待されています。

４　めざす姿

３のような京都の文化を取り巻く状況を踏まえつつ、文化が活きる京都として、４つのめざす姿を次のとおり定めます。

京都の文化的経済的諸活動に今なお生きる、自他を尊重し、自然を畏敬し、物事を大切にする心といった京都の人々の「こころ」を受け継ぎながら、これらを実現することにより、文化の力で地域の活性化や産業振興・経済成長が持続的に図られ、誰もが心豊かに暮らせる**あたたかな京都、文化で世界に貢献していく京都**をめざしていきます。

①人と人との絆が大切にされ、受け継がれた文化が将来にわたり継承される京都

京都には、茶道や華道などの生活文化、京料理をはじめとする府内各地の郷土食などの食文化、伝統芸能や年中行事など、古くから受け継がれてきた多様な文化が今も暮らしに息づいています。こうした文化とともに、先人から受け継いできた様々な知恵、営み、風土などは、京都の人々の「こころ」を培い、国内外の人々を惹きつける京都の魅力になっています。

[3] 国際マスターズゲームズ協会（IMGA）が 4 年ごとに主宰する、概ね 30 歳以上のスポーツ愛好者であれば誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会。2027 年には関西各地域で開催予定。

先人から連綿と受け継がれてきた京都の文化を、誇りと愛着を持って将来に継承していきます。

②匠の技と進取の気質で革新を起こし、新たな価値が持続的に創造される京都

京都では、古くから国内外との多様な交流により、新しい技術などを受容し自らの文化をさらに発展させることを繰り返してきました。その中で育まれた京都の匠の技と進取の気質は、大学などの研究機関や世界で活躍する企業を生み出すとともに、現代アートやアニメ、ゲームなどのメディア文化といった新たな文化も積極的に受容し、国内外に向けた京都の新たな魅力として発展させるなど、現代日本の文化的経済的な基盤を担う源泉となっています。

革新を繰り返すことで現代に続く伝統を育んできた京都の進取の気質を活かして、未来志向の挑戦を重ね、新たな価値を創造する土壌を整え、持続的な経済成長をめざします。

③文化が暮らしの基盤となり、豊かな人間性が育まれる京都

文化は、鑑賞や体験を通して感性や創造性といった豊かな人間性を育むだけでなく、文化活動[4]への参加を通して人と人、人と社会とのつながりを形成するなど、人の成長や社会全体を支える糧となるものです。また、近年では、文化芸術が心身の健康に好影響を与えることを示唆する研究結果[5]もあります。

文化が人と社会とのつながりを築くとともに、豊かな人間性を育むことが満ち足りた生き方やウェルビーイング[6]の向上につながる社会の実現をめざします。

④京都の文化の力を活かし、府内各地で活力が生み出される京都

府内各地には、四季の移り変わりや人々の暮らしとともに育まれた祭りや年中行事などの多様で個性あふれる地域文化が受け継がれています。こうした地域文化は、府内各地の魅力を伝えるとともに、京都全体の文化の力として国内外の人々を惹きつける強みともなっています。

また、これらの地域文化は、多世代を結ぶ地域コミュニティの形成に寄与するとともに、地域への誇りと愛着の醸成にも寄与しています。

府民はもとより、地域の企業や文化・経済団体、教育機関など多様な主体の有機的な連携のもと、こうした地域文化の魅力を活かし、さらに磨き上げることにより、各地で活力が生み出される京都をつくります。

---

[4] 本指針では、文化に触れるきっかけとしての一時的な体験を「文化体験」、一定期間継続して取り組む活動を「文化活動」としている。

[5] WHO 欧州地域事務局「HEALTH EVIDENCE NETWORK SYNTHESIS REPORT 67 “What is the evidence on the role of the arts in improving health and well-being? A scoping review”」（2019 年）

[6] 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることをいう。

5　京都の文化の強みを活かす取組推進の視点

めざす姿の実現に向けては、国内外の人々を惹きつける京都の文化が生まれる中で培われ、受け継がれてきた先人の思想や技といった京都の強みを活かしていく視点が重要です。

(1)「縁」を重んじる文化

京都は、古くから日本の政治・文化の中心を担っていたこともあり、国内外の多くの人々と交流しつつ、自然との関わりの中で生業を営んできました。そこで様々な縁が育まれ、その上に暮らしが成り立っていました。また、繁栄の一方で幾度かの戦火や明治維新時の東京遷都などにより、まちの活力は衰退に見舞われましたが、その度に復興し、人々の縁はより広く深いものとなりました。

こうした歴史背景を持つ京都には、祇園祭など様々な年中行事の継承や番組小学校の創設など、京都の都市機能を支えてきた町衆の文化や、全国から様々な特産物が集まり、調理法や接遇にも創意工夫がもたらされた食の文化、四季折々の自然環境や気候風土との関わりの中で培われた行事や風習といった暮らしの文化など、縁を重んじる文化が息づいています。

＜「縁」の活用イメージ＞

縁を交わす（国内外からの誘客や新たな関係の創出）

地域と多様な関わりを持つ企業や個人などによる関係人口の創出、観光誘客や移住・定住の促進、国内外との交流、海外販路開拓などを図ります。

縁を紡ぐ（連携・交流の促進）

複数の糸が撚り合わさることで強く長くなるように、分野を超えた多様な主体の連携・交流を促進するとともに、府民が気軽に文化を体験できる機会を創出します。

縁を深める（人と人や物の関係強化）

暮らしの文化をともに支え合うコミュニティや、工程ごとに分業で役割を担い合う職人同士のように、既に縁で結ばれている人と人、人と物との関わりを強めます。

(2) 「技」を極め、生み出す文化

京都には朝廷・公家、各宗派の総本山、茶道や華道の家元などが存在したことから、全国から腕利きの職人や質の良い素材が集まり、技が磨かれることで、絵画や染織品、工芸品など最高級の物が作られてきました。

また、京都では、伝統に裏打ちされた高い技術力をもつ職人が諸産業を担ってきました。現代においても、高い技術力を持つ職人や大学・研究機関に集まる研究者などが技を極め、国内外から集まる新しい技術などを活用し、新たなサービスや製品、作品を生み出す文化が息づいています。こうした文化は、京都大学の iPS 細胞研究や関西文化学術研究都市の脳科学研究といった世界を牽引する研究や技術開発につながっています。

＜「技」の活用イメージ＞

技を掛け合わせる（新価値の創造）

ものづくり企業とアーティストとの異分野交流や、伝統の技と先端技術との掛け合わせなど、多様な主体の共創や革新により、新たな価値を創造します。

技を高める（技術の修練）

若手のアーティストや職人が自ら技術習得に打ち込める環境を整えるとともに、才能ある人材に光を当て、その能力を磨き上げることで、技術を高めます。

技を魅せる（新技術の披露・発信）

染織品、工芸品などの伝統工芸を活かした新製品や、先端技術による伝統芸能の新たな演出など、新たな技術を披露・発信します。

(3) 「心」を育み、つなぐ文化

京都では、古くから多くの社寺が建立され、様々な教えや信仰が育まれました。また、茶道、華道といった「道」を極める文化により、心の鍛錬や精神の豊かさを追求する土壌が形成されてきました。

現代においても学生のまちとして知られており、和食文化学や漫画、幸福感、赤ちゃん学[7]など京都ならではの学術研究も行われるなど、心を育み、つなぐ文化が息づいています。

[7] 小児科学、発達心理学、発達神経学、脳科学、教育学、保育学、物理学、ロボット工学、倫理学などさまざまな視点で、人間の起点である赤ちゃんを研究する異分野融合型の新しい学問領域をいう。

＜「心」の活用イメージ＞

心を育む（文化に込められた心根の継承・教育）

茶道のおもてなしの心や、華道の自然を敬う心など、文化に込められた精神性を伝え育みます。

心を動かす（文化を活かした社会参加の促進）

博物館や美術館などでの鑑賞や学び、祭りや音楽、演劇などの文化活動を通して、府民自らが心を動かし、主体的に地域や社会とつながる機会を創出します。

心を癒す（文化を活かしたウェルビーイング）

音楽や美術鑑賞、茶道や華道などの文化体験・文化活動、社寺めぐりなど、文化に親しむ機会を通して、心身両面のウェルビーイングの向上につなげます。

(4) 「個」性ある地域文化

府内各地では、地域の歴史風土、生業などに育まれた魅力ある伝統芸能や景観、暮らしの文化が受け継がれるとともに、新たな文化が創造されており、それぞれの地域に根差した固有の文化は、府内各地の多様な個性を生み出し、京都の魅力となっています。

丹後地域	古くから海洋交通による大陸との交流が活発に行われ、舟屋に象徴される生活様式や海の幸を用いた食文化、海にまつわる祭りや伝説などが伝わっています。
中丹地域	丹波山地と日本海に囲まれ、豊かな自然を背景に山岳寺院や祭礼、芸能、鬼退治伝説など特色ある文化が伝わっています。
南丹地域	豊かな自然からもたらされる山の幸や畜産など京の台所を支える食文化や建材を供給する林業など森の文化が伝わっています。
京都市乙訓地域	千年ものあいだ都であったことから、御所を中心とした公家文化など多彩な文化が育まれるとともに、各所にそれぞれの時代を物語る歴史が伝わっています。
山城地域	平城京と平安京の両文化の影響を受けながら発展し、多くの社寺や街道とともに宇治茶や祭りなど暮らしに息づく豊かな文化が伝わっています。

＜「個」の活用イメージ＞

個を探す（地域文化の掘り起こし）

文化の価値の再認識につながる取組やその魅力的な発信など、府内各地のあまり広くは知られていない文化やその価値を掘り起こします。

個を磨く（地域文化の磨き上げ）

掘り起こした文化を観光資源やまちづくりの資源として活用するための体制の構築や体験機会の創出など、活用に向けて磨き上げます。

個を活かす（地域文化の活用）

磨き上げた文化を核とした観光など、府内各地における文化の価値や魅力を活かし、地域の活性化につなげます。

6　推進体制

文化活動の主役は、それぞれの地域を支えている住民や団体であり、その自主性を尊重するとともに、文化が活きる京都の実現に向け、文化庁、京都市をはじめとする市町村、文化・経済団体、大学をはじめとする教育機関などの多様な主体と有機的に連携し、それぞれの持つ資源を活かしながら、本指針に掲げる取組を一丸となって推進します。

さらに、府内外のアーティストやデザイナー、プロデューサーなどによる「京都文化デザインハブ」（仮称）を組織し、プロジェクトに適した文化人材と共創することで、文化デザインをアップデートしながら、より効果的に取組を推進します。

7　重点プロジェクト

４つのめざす姿ごとに重点プロジェクトを立ち上げ、めざす姿の実現に向けて、京都の強みを活かした取組を展開します。

①人と人との絆が大切にされ、受け継がれた文化が将来にわたり継承される京都

能、狂言などの伝統芸能や茶道、華道などの生活文化、京料理、郷土食などの食文化や伝統工芸など、これまで受け継がれてきた文化を次世代に継承するための取組を推進します。

文化が活きる「継往開来（けいおうかいらい）※」プロジェクト

※先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開くこと

縁を紡ぐ　縁を深める　心を癒す

生活様式の変化や価値観の多様化によって継承が困難になりつつある伝統芸能や生活文化などについて、多様な主体の連携・交流や府民による体験を促進することにより、担い手の育成や現代に求められる新たな革新につなげる取組を推進します。

（取組例）

- 後水尾天皇が二条城に赴いた、江戸時代最大のイベントといわれる「寛永行幸」から 2026 年で 400 年を迎えることを記念した事業を展開
- 急須でお茶を飲む、暦に合わせた食や衣服、家の設えを愉しむといった日常の生活文化を、自分と向き合う「＃（ハッシュタグ[8]）豊かな時間」として発信し見つめ直す府民運動を展開
- 文化活動により幅広い視野や思考力を得ようとする社員を応援する企業などを「京都流リスキリング[9]推進企業」（仮称）として支援し、文化の担い手の裾野を拡大
- 料理人や食材の生産者、器の作家など、食を支える若手人材が分野を超えて集い、次世代に求められる京都の食のあり方を考える「京都の食 次世代ベース」（仮称）の創設

「KOGEI」ネクスト・ステージプロジェクト

縁を交わす　技を掛け合わせる　技を高める

職人の減少と高齢化が進み、技術の継承が危ぶまれる工芸について、国内外との交流や海外販路開拓により、背景にある文化を含めた魅力を発信するとともに、アートとしての「KOGEI」など、新たな価値を創造する取組を推進します。

（取組例）

- 海外美術館のキュレーター[10]などを招聘して、世界的アートの視点から京都の工芸の魅力や価値を再評価し、新たな「KOGEI」を国内外へ展開
- 技術力の高さだけでなく、その背景にある歴史・風土や精神性などの魅力や神髄に触れることができる工房見学会を外国人向けに実施するなど、海外への発信力を高め、販路を開拓

②匠の技と進取の気質で革新を起こし、新たな価値が持続的に創造される京都

アート市場の拡大やメディア文化の振興、異分野交流による新たな文化の創造など、これからの時代に求められる新たな価値を創造する取組を推進します。

アート・ジャンクション※京都プロジェクト

※結合、接合、連結。転じて、交差点、接続点を指す。

縁を交わす　縁を紡ぐ　技を高める

日本有数のアートフェア「Art Collaboration Kyoto」や若手アーティストの活躍の場「ARTISTS’ FAIR KYOTO」、日本の時代劇の評価が世界的に高まる中で一層注目が集まる「京都ヒストリカ国際映画祭」などをさらに発展させ、京都が多くのアートと人が交差しつながり合う「アート・ジャンクション」となることをめざす取組を推進します。

---

[8] SNS などのソーシャルメディアにおいて、特定のテーマについての投稿を検索して一覧表示するための機能。＃kyoto のように、＃の後にキーワードを付与する。

[9] リスキリングとは、新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させることをいう。本指針では、就労などのため直接的に必要とされるスキルではないが、文化活動を通じて、幅広い視野や既存の発想にとらわれない思考力などを獲得する／させることを「京都流リスキリング」（仮称）としている。

[10] 博物館・美術館などの、展覧会の企画・構成・運営などをつかさどる専門職のこと。

（取組例）

- 大学などの枠を超えた教員の協力を得て、国際的なアートイベントなどの企画・運営や魅力的な情報発信、資金調達などを担うマネジメント人材を育成
- 様々な場所にアートを展示することで、府民や観光客がアートを身近に感じ、触れ、つながり合えるアート空間を府内全域に創出

メディア・ビッグ・バンプロジェクト

縁を交わす　技を掛け合わせる　技を高める

早くから映画撮影所が開設され、世界で活躍するゲームやアニメの制作企業が誕生した京都から、メディア文化を支えるクリエイターやビジネスにつなげるマネジメント人材を育成するとともに、新たなメディア文化を創造する取組を推進します。

（取組例）

- 世界の有望若手クリエイターを発掘する新たな公募表彰制度を創設し、歴史的建造物などの京都ならではの特別な空間を活かして、従来の枠に収まらない新たなメディア文化を創造・発信
- 大学などと連携し、作品の収益化を支えるマネジメント人材など、世界的に評価の高い日本のメディア文化のさらなる発展につながる人材を育成

③文化が暮らしの基盤となり、豊かな人間性が育まれる京都

文化体験・文化活動への参加による社会とのつながりの形成やそれによる健康増進など、文化を活かしたウェルビーイングの向上をめざす取組を推進します。

文化によるウェルビーイング向上プロジェクト

縁を深める　技を掛け合わせる　心を癒す

国民の約８割が日常生活に不安や悩みを感じ[11]、孤独感を感じる人も約４割に上る[12]中、身近な地域や職場における文化体験などを通したつながりづくりなど、文化を活かしたウェルビーイング向上の取組を推進します。

（取組例）

- 大学などと連携し、文化に触れる機会の少ない現役世代を対象に、文化体験や美術鑑賞などによるウェルビーイングの向上効果を「見える化」
- 芸術を学ぶ大学生と福祉施設などの利用者が一緒に文化活動を行うなど、文化による多世代・異分野の交流を通して、より良く生きるための新たなつながりを創出
- 福祉施設などの介護職員が文化に触れあう機会を提供するなど、介護職員を通じて入所者の鑑賞・創作活動を促すことで、利用者・介護職員双方の心身の健康を向上

---

[11] 内閣府「国民生活に関する世論調査（令和６年８月調査）」。日頃の生活の中で悩みや不安を「感じている」「どちらかといえば感じている」との回答の合計が 78.2%に達し、質問を始めた 1981 年以降で最多となった。

[12] 内閣府「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和６年）」。孤独感が「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」との回答の合計が 39.3%となった。また、孤独感が高い人ほどスマートフォンの使用時間が長い傾向が見られた。

文化の心はぐくみプロジェクト

縁を紡ぐ　縁を深める　心を育む

茶道のおもてなしの心、華道の自然を敬う心といった伝統文化の心根（精神性）や、様々な価値観、背景を超えて対話や共感を促す文化の力を、次世代を担う子どもたちに分かりやすく伝え育む取組を推進します。

（取組例）

- 伝統文化の魅力を分かりやすく伝えるプログラムの開発など、子どもの好奇心を揺さぶり、単なる「体験」から生涯を通じた「学び」につなげるしくみを創出
- 演劇や音楽、絵画、文学などを通して、自ら深く考え、対話によって相互に考えを深め、人間関係やチームワークを形成するコミュニケーション教育を推進
- 子ども自らが創り出す文化体験として、子どもたちの自由な想像力を形にする「子どもによる子どものための音楽会」などを開催

④京都の文化の力を活かし、府内各地で活力が生み出される京都

地域に根差す文化を活かした地域活性化の取組を促進するとともに、地域文化の拠点である文化施設の機能を活性化する取組を推進します。

地域文化による地域活性化プロジェクト

心を育む　縁を交わす　縁を紡ぐ　技を魅せる　個を探す　個を磨く　個を活かす

過疎化や高齢化の進行により継承が危ぶまれる府内各地の祭りや年中行事、伝統芸能や景観、暮らしの文化などについて、その独自性や文化的価値を分かりやすく伝え、魅力的に発信することで、継承や地域の活性化につなげる取組を推進します。

（取組例）

- 地域の祭りや伝統芸能、郷土料理などの地域文化の魅力を国内外へ発信し、交流を促すとともに、未来に引き継ぐための新たな発表の場を創設
- 遊休民家を活用して、年中行事や暮らしの文化、伝統工法技術などを体験・継承する地域の拠点とし、地域内外との交流や新たなコミュニティの形成を促進
- 潜在的な地域の魅力を住民に分かりやすく伝え、気づきをもたらすことで、住民発の新たなサービスや活動、産業の創出を促す人材の育成

人と地域をつなぐミュージアムプロジェクト

縁を紡ぐ　縁を深める　心を動かす　個を探す　個を磨く　個を活かす

資料の保存・展示といった従来からの役割に加え、地域の活力向上への寄与が求められる博物館や美術館などについて、2019 年の国際博物館会議（ICOM）京都大会[13]を機に組織された「京都府ミュージアムフォーラム」[14]の機能強化や、子どもから大人まで府民の主体的な参画を促す取組を推進します。

---

[13] 世界の博物館の進歩発展を目的とした世界で唯一最大の国際的非政府組織である国際博物館会議が、世界 141 の国と地域から 3 千人を超える博物館の専門家が集まる世界大会を 3 年に一度開催しており、2019 年には日本で初めて京都で開催された。

[14] 2017 年に創設した京都府内のミュージアム連携を目的としたネットワーク。ミュージアム連携を通して、各館の有する課題の解決や地域の活性化に向けた取組の推進を目指しており、2025 年 6 月現在、府内 69 の博物館・美術館等が参画している。

（取組例）

- 京都府ミュージアムフォーラムの枠組みを活かし、災害時に収蔵品の相互保管などを行う「京都府ミュージアム防災ネットワーク」を構築
- 博物館や美術館などの持つ資源を活かした魅力的で皆に開かれた展示や情報発信により、多世代が集い交流する拠点づくりを推進
- 赤ちゃんや子どもを連れて気兼ねなく展覧会などを鑑賞できる「家族の日」（仮称）を設定し、府内の協力文化施設で展開
- 博物館や美術館などを拠点に、アートを介した対話や創造活動を通して人と人や地域をつなぐ人材を府民の中に育成し、博物館や美術館などへの府民参画を促進

8　重点プロジェクトと合わせて着実に推進する取組

ここでは、７に記載した重点プロジェクト以外にも新たに実施する予定の取組や、京都府が継続して実施している取組などを中心に、４つのめざす姿ごとに分けてまとめています。

重点プロジェクトと合わせ、これらを着実に実施し、総合的に展開することにより、「文化が活きる京都」を実現していきます。

①人と人との絆が大切にされ、受け継がれた文化が将来にわたり継承される京都

＜「古典の日」の認知度向上＞

- 文化庁との共催による「古典の日フォーラム」を継続的に開催するとともに、「古典の日に関する法律」の趣旨にそって広く国民の古典への関心と理解を深めるよう、11 月１日を基軸に認知度向上に向けた取組を推進

＜文化財などの保存・継承・活用＞

- 国や京都府、市町村が指定などを行っている文化財をはじめ、歴史ある貴重な文化財など、各地に所在する貴重な有形・無形の文化財の歴史的・学術的価値について調査研究を進め、文化財の指定・登録・暫定登録制度を適切に運用するとともに、未指定も含めた文化財の保存を着実に推進
- 地域の文化財や祭り、伝統芸能、職人の技術などの記録、保存、活用を推進するため、デジタルアーカイブ[15]化を推進するとともに、VR[16]や高精細画像などの技術を利用した魅力発信を推進

[15] 文化財や芸術、出版物といった知的財産を、音声、画像、映像などのデジタルデータにして保存・加工が可能なものにすること。
[16] 仮想現実（Virtual Reality）の略。コンピューターの中につくられた仮想的な世界を、あたかも現実のように体験させる技術のこと。

＜伝統行事・伝統産業に用いられる素材の保全・継承＞

・「豊かな森を育てる府民税」を活用して、伝統行事や伝統産業の素材に用いられる植物を育成する森林を保全するなど、将来の府民に継承する取組を推進

②匠の技と進取の気質で革新を起こし、新たな価値が持続的に創造される京都

＜多様な交流の場の創出＞

・伝統産業、コンテンツ産業や食産業などの、文化を基盤とした産業が盛んであるとともに、IT や先端産業の研究開発拠点が集積し、産学公連携の実績が豊富な京都の特色を活かし、先端技術に関する研究者・事業者と文化芸術関係者などとの交流の機会を創出し、新しい文化の創造を推進

＜文化を通じた国際交流＞

・友好提携州省などとの文化を通じた交流を推進
・京都に暮らす外国人との文化の相互理解や交流の促進

③文化が暮らしの基盤となり、豊かな人間性が育まれる京都

＜切れ目のない、世代を超えた文化体験の充実＞

・学校・家庭・地域などの連携を強化し、幼児、児童、生徒に対する文化活動に加え、その保護者、さらには大学生や社会人などの幅広い層に対して、多様な文化体験の機会を提供
・誰もが親しみやすい文化である音楽を軸として、府内一円を音楽で満たす機会を創出

＜障害の有無によらない文化活動への参加促進＞

・障害の有無にかかわらず幅広く文化活動に参加することができるよう、鑑賞や創作活動への支援、発表の場の確保、情報発信などを行うとともに、芸術上価値が高い作品などの創造・活用を支援

④京都の文化の力を活かし、府内各地で活力が生み出される京都

＜地域における文化活動の振興＞

・伝統芸能や工芸から舞台芸術や現代芸術まで、府内で活動するアーティスト・クリエイターなどの創作環境の整備、技術の伝承、作品などの流通の促進などを推進
・地域での文化活動を活性化させるために必要な、専門的な見地からの指導や助言、評価ができる人材や、文化活動を支える人材の育成

＜観光、まちづくり施策との連携＞

・地域の文化資源を生かした特色ある地域づくりを展開し、外部から新たな発想を加えることで、府内各地域における文化活動の振興と地域の活性化を図るため、地域の文化活動を支援する人材を配置

・ 京都府が取り組んできた「もうひとつの京都」を発展させ、各地の文化資源の魅力を再発見し、積極的に活用することによる地域活性化や観光振興を行うほか、それぞれの地域の特質に基づいた文化を創造し続けるための取組を推進

＜文化活動の国内外への発信＞

・ 文化芸術活動において顕著な業績をあげられた方の顕彰により、京都の持つ文化芸術の質の高さ、奥の深さを発信し、文化のさらなる振興や発展を推進
・ 地域の文化活動や行催事などの情報を、若い世代や子育て中の人、障害者、高齢者といった受け手に合わせて提供

9　取組の評価

(1) 有識者への意見聴取

文化が活きる京都推進審議会にプロジェクトの進捗状況を報告し、その後の取組実施をより良いものとするために、審議会委員から意見の聴取を行います。

(2) 数値目標

指標	基準値 (2024 年度)	目標値	出典
文化・芸術に関わりを持つ（鑑賞・体験含む）人の割合（%）	６１．８	９０．０	文化に関する府民意識調査 （府文化政策室）
国内外や異分野との文化的な交流が盛んに行われていると思う人の割合（%）	―	９０．０	文化に関する府民意識調査 （府文化政策室）
文化・芸術に係る地域幸福度（Well-Being）主観データ（文化・芸術）偏差値※ ※数値の最小値は 20、最大値は 80	５４．０	７０．０	Well-Being 全国調査 （デジタル庁）
歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合（%）	８２．５	９０．０	京都府民の意識調査 （府総合政策室）